

AL-AZHAR UNIVERSITY
BULLETIN OF THE FACULTY
OF
LANGUAGES & TRANSLATION



جامعة الأزهر
مجلة كلية اللغات والترجمة

日本の文化と伝統を反映する『ゴジラ』映画受
容（史）の状況
-日米以外の国々を中心に-

By

Amira Saeed Ali Youssef

Department of Japanese Language, Faculty of
Languages and Translation, Egypt

"How is Godzilla Movie, Which Reflects Japanese Culture and Traditions, Being Perceived Globally-Focusing on Main Countries Other Than Japan and the United States"

Amira Saeed Ali Youssef

Department of Japanese Language, Faculty of Languages and Translation, Egypt.

Email: Moslemamasriyaamira@gmail.com

ABSTRACT The "Godzilla" movie was released in 1954 (Showa 29), a series of famous films that were released to the public in atomic-bombed Japan to convey the message that there is no one can suppress nuclear weapons at all. It is a series work. On the other hand, the Americans, who may have wanted to take a stand in favor of the use of nuclear weapons, mainly recreated the series entitled (Godzilla)- in Roman letters. In this way, it can be seen that the United States' "Godzilla" is extremely different from that of the Japan's original "Godzilla". Needless to say, there are a lot of studies related to the differences between Japan and the United States in how "Godzilla" is perceived. Therefore, in order to explain the background of this research, this paper only touches on the creation and screening of "Godzilla" in Japan and the United States. However, the perceiving of "Godzilla" in Europe – such as the United Kingdom and Germany in particular- and the perceiving of "Godzilla" in Asian countries, as well, is focused on in the whole paper. The study shows that, from the last century to the present, the content of the "Godzilla" movies screened in various countries is almost the same as the content of the entire "Godzilla" series of the original Japanese creation, but it can also be said that it cannot be denied that the historical and social conditions of those countries are also reflected.

Keyword: Godzilla, Japan, USA, UK, Germany, European, Asia

سلسلة أفلام "جودزيلا" اليابانية: إنعكاس ثقافة وتقاليد اليابان في عيون عالمية

– بالتركيز على دول أخرى بخلاف اليابان وأمريكا-

أميرة سعيد علي يوسف

قسم اللغة اليابانية، كلية اللغات والترجمة، مصر.

البريد الإلكتروني: Moslemamasriyaamira@gmail.com

الملخص: صدر فيلم "جودزيلا" للمرة الأولى عام 1954 (العام 29 من عصر شووا الياباني) وهو عبارة عن سلسلة من الأفلام الشهيرة التي تم طرحها للجمهور في اليابان التي تعرضت للقصف الذري، وذلك بهدف توصيل رسالة هامة مفادها أن أحداً لا يمكنه قمع الأسلحة النووية. وفي المقابل، أعاد الأمريكيون صناعة سلسلة أفلام أمريكية تحمل نفس الاسم، إلا أنها اصطبغت بصبغة الموقف الأمريكي الداعم لاستخدام الأسلحة النووية – آنذاك. وقد ظهر من خلال البحث أن النسخ الأمريكية للفيلم المذكور تختلف جذرياً عن النسخة اليابانية الأصلية له. جدير بالذكر، أنه توجد العديد من الدراسات المتعلقة بالاختلافات بين اليابان والولايات المتحدة في طرح قصة فيلم "جودزيلا". تلك الاختلافات التي تم التطرق إليها في هذا البحث باعتبارها فقط خلفية مرجعية لموضوع البحث- وليست المحور الأساسي للبحث الذي ركز على إعادة صناعة فيلم "جودزيلا" في أوروبا- وفي المقدمة المملكة المتحدة وألمانيا- كما تم التركيز كذلك على إعادة صناعة الفيلم المذكور في دول آسيا. هذا، وقد خلص البحث إلى وجود تشابه كبير بين محتوى أفلام "جودزيلا"، التي تعكس ثقافة وتقاليد اليابان، التي تم عرضها في بلدان مختلفة - من القرن الماضي إلى يومنا هذا - وبين محتوى سلسلة "جودزيلا" اليابانية الأصل، إلا أن نتائج الدراسة تمخضت عن أنه لا يمكن إنكار انعكاس الظروف التاريخية والاجتماعية لكل دولة، والتي ساهمت في إعادة صناعة فيلم "جودزيلا" في كلٍ منها - كلٍ على حده.

الكلمات المفتاحية: جودزيلا، اليابان، الولايات المتحدة الأمريكية، المملكة المتحدة، ألمانيا، أوروبا، آسيا.

要旨

『ゴジラ』映画は、1954 年（昭和 29 年）に、日本人は、人間が核を全く抑えられないというメッセージを伝えるべく、原爆を投下された日本で公開されて上映された有名な一連のシリーズ作品である。他方、核兵器使用肯定の立場を示そうとしただろうと思われるアメリカ人は、主に、（Godzilla）という題名のシリーズを再び制作した。このように、日本の一次的創作は米国の『ゴジラ』二次的政策のそれと極めて相違することが窺えた。『ゴジラ』の受け止め方における日米間の相違関連研究は山ほど多くあるとこのことが言うまでもない。従って、本稿においては、研究の背景を述べるため、日米における『ゴジラ』の作成や、上映展開などに触れた形だけで、具体的に、日米以外の国々における『ゴジラ』の受容を中心に取り上げることにした。特に、イギリスとドイツをはじめ、ヨーロッパのみならずアジア諸国にまでわたる『ゴジラ』受容を検討してきた。この検討により、日本の文化や伝統を反映しており、前世紀から現代にかけて、様々な国々で上映している『ゴジラ』映画の内容は、日本の第一次創作の『ゴジラ』全シリーズの内容とほぼ同じだと言えるが、個々の国の歴史的かつ社会的情勢も映っていることを否定できないということも言えよう。

キーワード

ゴジラ、日本、米国、イギリス、ドイツ、ヨーロッパ、アジア

1. 序論

『ゴジラ』映画は、1954 年（昭和 29 年）に日本の東宝が公開した伝統的かつ歴史的な一連のシリーズ作品である。「ピーアールタイムズ」¹によれば、ランキングによれば、1954 年に日本初公開されたシリーズ第 1 作目としての『ゴジラ』が、観客動員数 961 万人との大ヒットを記録して以来、全世界で大人気になり、2021 年に上映された『ゴジラ p コング』は、全世界興収 500 億円突破した。それに加え、『ゴジラ×コング：新帝国』は、2024 年 3 月下旬に米国の映画館で公開され、初週末のオープニング収益は予想を上回る 8000 万ドルを達成し、2024 年 4 月までに、全世界興収 3 億 6000 万ドルを超えた。

「ゴジラ」とは架空の怪獣の名称で、「ゴリラ」と「クジラ」とから合成された語である。日本人は原爆を投下された国民としての立場から、人間が核を全く抑えることが出来ないと意識し、『ゴジラ』映画を通じて核実験への抗議の姿勢を示そうとした。

一方、人間は核をコントロール出来ると見做す米国は、核兵器使用肯定の立場を示そうとして、後年（Godzilla）という題名のシリーズを再び制作した。しかし米国版のゴジラは怪獣ではなく、恐竜として造形されている。これに対して日本でも、原爆を落下させた国である米国版のゴジラ（Godzilla）への反撃として、『ゴジラ』映画の再制作を開始した。

2. 問題提起

池田淑子は『アメリカ人の見たゴジラ、日本人の見たゴジラ』（大阪大学出版会、2019 年 4 月 10 日）において、『ゴジラ』映画の受容史を考察した、専門を異にする日米の 6 人の研究者のそれぞれの分析をまとめて編集した。

「アメリカ人がそれを最も高く評価した国民だということを知り、非常に驚いた」というゴジラ映画に出演した俳優の故土屋嘉男の言葉も引用した『アメリカ人の見たゴジラ、日本人の見たゴジラ』（前掲書）によれば、米国では『ゴジラ』映画には今も人気を博している。1954 年に日本版の第 1 作『ゴジラ』が公開された 2 年後、1956 年には、アメリカで『ゴジラ』が編集されて、米国版の『怪獣王』映画が公開された。このハリウッド版においては、日本版の『ゴジラ』の映像が大幅にカットされたことは別格

¹ ピーアールタイムズ＝PRTIMES は、日本の株式会社であり、記者をはじめ生活者に最もよく活用されているプレスリリース配信サービスを提供している会社である。

として、放射能や核実験の威力等が協調されたことも注目される。キングコングとゴジラとの対立をテーマにした、1962 年公開の『キングコング対ゴジラ』も、日米両国で違いがあった。日本は、対立が引き分けで終わる結末に決めた一方で、アメリカは、対立がキングコング優位で終わる結末に決めた。

このように、米国による二次的創作の『ゴジラ』は、日本版『ゴジラ』とは大きく異なる。では世界の他の国々ではどうであろうか。

本稿では、日本の文化・伝統を反映する『ゴジラ』映画の受容や受け止め方等が長年に渡り学術研究の対象になってきた米国以外の国々において、「人間社会の鏡」(『アメリカ人の見たゴジラ、日本人の見たゴジラ』、前掲書)とされる日本映画『ゴジラ』がどのように受容されていたかを検証することにしたい。

3. 本論

『ゴジラ』映画は日本国内のみならず、世界の各国で高い人気・評判を誇っている。日本で上映されて以来、この映画は国境や文化等を越え、世界 70 以上の国々で上映された。即ち米国をはじめイギリス、フランス、ドイツ、イタリア、ベルギー、スペイン、ポーランド、スウェーデン、オーストラリア、ハンガリー、ポルトガル、メキシコ、アルゼンチン、フィンランド、チェコスロバキア、コロンビア、台湾、エジプト、タイ、マレーシア、ユーゴスラビア、ロシア等である。

本校では、前述の国々の中から、日本版『ゴジラ』の全シリーズが上映された、特に大ヒットした何ヵ国を取り上げる。

3-1 ゴジラのポスター

怪獣・怪物は、それが同じ単語でも、国々によって恣意的に使い分けられ、題名によってかなり意識されたりしている。まずは日本版『ゴジラ』が、世界の国々で上映・公開される際に作られるポスターについて検討を試みよう。

まず、1954 年公開の『ゴジラ』が、他国で上映された際に、作られたポスターの題名を例示する。イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、ポーランド、スウェーデン、オーストラリア、ハンガリー等では、「ゴジラ」の

題名がそのまま使われた一方、ベルギー、メキシコ、アルゼンチン、キューバでは「ゴジラ」の前に「怪獣王」という修飾語が付けられた。スペインでは「ゴジラ」という題名自体が全く使われず、内容を指す『日本における怪獣の恐怖』という題が付けられ、メキシコでは『太平洋の怪獣』と、具体的な所の名が付けられている。

『ゴジラの逆襲』は 1955 年に日本で初公開されたが、これが外国で上映された例は比較的少なかった。フランスとベルギーでは同じ題名で公開されたが、イタリアとスペインでは「ゴジラ」の名が無く、『怪獣王』の題名で人気を博した。メキシコでは『炎の巨大怪獣』という題名で上映された。

1962 年に新たに作られた『キングコング対ゴジラ』は大ヒットしたが、外国ではどのような題名であったか。フランス、ベルギー、スペインでは同じタイトル、イギリス、オーストリア、メキシコでは「対」の代りに「VS」というラテン語の略称に書き換えられた。それに対しドイツは、「ゴジラ」の名前を使わず「キングコング」を優先して『キングコングの逆襲』との題を付け、イタリアでも「キングコング」を強調した『キングコングの勝利』という題名が付けられた。

1964 年作の『モスラ対ゴジラ』は、外国ではどのような題名であったか。フランスとスウェーデンでは変化が無い。日本とは順番を代え「ゴジラ」という名前で始まる事例もあった。イギリス、ベルギー、スペイン、メキシコでは『ゴジラ対怪物』と書かれ、ドイツでは「対」という競争的な意味から離れるように、『ゴジラと原始芋虫』という題が付けられた。

同年日本は『三大怪獣 地球最大の決戦』という名の映画をも制作した。外国では広くは上映されなかったが、「ギドラ」という新しい言葉が現れた。例えば、スペイン、メキシコ、アルゼンチンでは『ギドラ、三大怪獣』の名で公開され、イギリスでは『三頭の怪獣ギドラ』とされた。

次の年には『怪獣大戦争』が上映された。日本以外で公開されたとき「戦争」の語は全く出なかった。戦争を始めたのは「地上に居ない怪獣」という内容を、間接的に伝えようという意図の題名がよく使われた。例えばイタリア、メキシコ、コロンビア、台湾では『宇宙怪獣の侵略』とのタイトルであった。これに似た『宇宙怪獣の攻撃』はフィンランドのポスターで使われ、『怪物の攻撃』はチェコスロバキアのポスターに現れた。その他『星の侵略』は、フランス、ベルギーのポスターに使われた。因みに

ドイツでは『闇からの指令』と、全く違ったタイトルが付けられた。

続けて 1966 年、日本では『ゴジラ・エビラ・モスラ南海の大決闘』が公開された。何ヵ国かでは、その題名を引用したようなタイトルで上映された。イギリスの『深海の恐怖エビラ』、フランスの『エビラ対ゴジラ』、ドイツの『大怪獣(ゴジラ)と海から来た怪物』、オランダの『深海の恐怖エビラ』、イタリアの『ゴジラの復活』、スペインの『海の怪獣』、メキシコの『ゴジラ対海の怪物』、コロンビアの『深海の恐怖エビラ』等である。

1967 年、日本では新しい角度から『ゴジラ』を制作した。タイトルは『怪獣島の決戦ゴジラの息子』である。二世の誕生を主題とするこの日本映画は、外国ではどのような題名で上映されたであろうか。イタリア、スペイン、スウェーデン、メキシコ、エジプト、タイ等では『ゴジラの息子』という直接的なタイトルが目立つ。ドイツでは『ゴジラの息子を狩る怪物』という題名であった。フランスとオランダでは『怪獣たちの星』、フィンランドでは『怪物の島』の名で上映された。

その翌年日本が公開したゴジラ映画の主題は『怪獣総進撃』であった。これに対する諸外国の紹介は、その殆どが「怪獣」の立場を支援しなかった。フランスとベルギーでは『侵略者の襲撃』、イギリスでは『怪獣島作戦』、スペインでは『宇宙からの侵略者』、フィンランドでは『怪物が世界の脅威となる』、イタリアでは『キングコングの後継者』等である。ドイツの映画ポスターは『大怪獣と宇宙から来た怪物』であった。

「ゴジラ」と「対」の語を含む映画が、再び『ゴジラ対ヘドラ』の題名で 1971 年日本、イタリアで上映された。又この日本映画の題名と同じ内容の題名が、それ以外の外国映画のポスターに使用された。ベルギーでは『ゴジラ対公害怪獣』、イタリアでは『ゴジラ対猛怪獣』、ドイツでは『大怪獣対悪魔の怪獣』である。それをアレンジしてスペインでは『ヘドラ、有毒怪獣』、メキシコでは『公害怪獣』とされた。

その翌年、日本では『地球攻撃命令ゴジラ対ガイガン』が上映された。これが公開された外国諸国の題名は、それぞれ次のようである。ポーランド、メキシコ、オーストラリアでは『ゴジラ対ガイガン』、フランスでは『対地球最終作戦』、イタリアでは『ゴジラ対巨大怪物』である。又イギリスは『怪獣たちの戦い』、ベルギーは『ゴジラの地球』、スペインは『宇宙怪獣ガリエンの地球攻撃』であった。因みにドイツでは、前年公開された映画の題名とよく似た題名がポスターに作られた。『大怪獣の餓鬼ども』で

ある。

これらに引き続き日本では 1973 年に『ゴジラ対メガロ』が、オーストラリアでは『ゴジラ VS メガロン』が上映された。それに対し、メキシコとマレーシアとは、「宇宙」を主題とし、それぞれ『宇宙の巨人』と『宇宙の王子』として上映した。イタリアでは『現実の限界』との変わったタイトルで公開された。スペインでは流行の「スーパーマン」という名が初めて用いられ、『東京発ゴルゴとスーパーマン』として公開された。ところで、未来や次世代のことなどを予想するような、数字入りの題名も初めて現れた。『ゴジラ 1980』は、フランス、ベルギーでの上映時の題名であった。

1974 年の映画『ゴジラ対メカゴジラ』は、イタリアでは「ゴジラ」と戦った「メカゴジラ」を修飾するタイトル、『恐怖のメカゴジラ』として公開された。因みに日本映画が外国で上映された際に「ロボット」が話題となったが、これは外国のポスターにも採択された。その典型はスピンのかかった『ゴジラ対ロボット』である。「機械怪物」をタイトルに付けた国々もあった。例えばフランスでは『ゴジラ対機械怪物』が、メキシコでは『機械怪物対ゴジラ』が公開されている。不気味な生物を意味する名前を付けた題名も現れ、ドイツの『怪物対ゴジラ』、イギリスの『ゴジラ VS 宇宙怪物』と『ゴジラ VS サイボーグ怪物』などがそれらである。

次の年、新しい『ゴジラ』映画が公開された。前年の映画の題名に繋がる『メカゴジラの逆襲』である。外国のポスターの題名は次のようである。イギリスでは『宇宙から来た怪獣』、イタリアでは『破壊の怪物！地球の危機』。ユーゴスラビアでは前年にイタリアが公開した映画名と同じタイトルが、メキシコでは 1974 年にフランスと並び上映した映画と同じ題名が今回の日本映画に付けられた。ところが、この大ヒットした日本映画を違ったタイトルで 2 回上映した国があった。『失われた大陸の怪物』と『宇宙の怪物』を公開したフランス、同じく『失われた大陸の怪物』と『ゴジラの恐怖』を公開したベルギーである。

1984 年には、日本はこの独特のシリーズを元の題名に戻し、したがって新たに『ゴジラ』を上映したスペインを始め、「ゴジラ」という名が外国のポスターに多く出てくるようになった。イギリスの『ゴジラ伝説よ、再び・・・』、フランスの『ゴジラよね再び・・・』、ポルトガルの『ゴジラ復活』、メキシコの『ゴジラの復活』等である。

以上、日本映画の『ゴジラ』シリーズの中から、外国で上映された映画、

特に大ヒットした映画の題名や概要等を簡単にまとめた。

次に、『ゴジラ』映画が多く上映された上述の外国の中から、具体的に二カ国を取り上げ、そこでの『ゴジラ』受容について簡単に述べたい。

3-2 イギリスでの『ゴジラ』公開

日本国内初公開から半世紀をかけ、『ゴジラ』米国版だけを上映してきたイギリスは、2005 年 10 月 14 日、初めて首都ロンドンの映画館や劇場で『ゴジラ』日本版を公開し、世界的な人気怪獣映画として評価された。BBC テレビによると、世界的な人気怪獣映画ノンカットバージョンのオリジナル日本『ゴジラ』は、原爆の恐怖や核実験への不安感を反映するとされた。そのような政治的なメッセージがアメリカ国内ではタブー視され、日本シリーズと違ったハリウッド版が生まれたのである。BBC (2005) は、“The original Hollywood edit of the movie removed its anti-nuclear and anti-American plot lines.” (注 1) と報告している。

3-3 『ゴジラ』のドイツ盤 DVD

ドイツは『ゴジラ』シリーズからいくつかの日本版のセリフをドイツ語に訳し、ドイツ盤 DVD を制作した。ドイツ盤 DVD の『キングコング対ゴジラ』は、オリジナルと違った雰囲気がある。これは米国公開版が元になっており、日本が舞台なのに、それを補足説明する形で登場するアメリカ人が目立った。それに、カットされたところもある。たとえば、ラストシーンについて、日本版はゴジラの鳴き声もあるのに、ドイツ盤のナレーションでは「コングが勝った」ということを示すコングの咆哮しか鳴り響いていない。

一方、『モスラ対ゴジラ』のドイツ盤 DVD は、販売メーカーが違うためかも知れないが、オリジナルの日本版とほぼ同じであり、音楽や雰囲気等は全く同様である。そればかりではなく、日本の自衛隊の隊長として藤田進が出演しており、アメリカ版にしか存在しない米国艦隊のゴジラへの攻撃シーンも収録され、そのため世界中で一番長い『モスラ対ゴジラ』盤になっている。

次に『怪獣大戦争』という題名のドイツ盤 DVD について述べる。そのオリジナルとなった日本映画の題名は『三大怪獣 地球最大の決戦』である。この盤は日本版のいくつかのシーンをカットし、ストーリーの流れは『三

大怪獣 地球最大の決戦』より速い。又、この盤の音楽は元々の日本版の音楽と殆ど同じく、タイトル・パックのみに変化がある。

ドイツ盤 DVD での『モスラ対ゴジラ』は、同じタイトルの日本映画と同じメーカーの制作なので、いわゆるスコープ・サイズやラン・タイム等のような技術的なところまで日本版に非常に近い。言い換えれば、原語のみを差し替えたドイツ盤になることである。

前述のドイツ盤 DVD 『ゴジラ』シリーズは非常に人気があるが、それに対し、極めて低い作品だと評価された映画は『地球攻撃命令／ゴジラ対ガイガン』である。特に、旧作の映画の音楽、しかもゴジラとアンギラスが吹き出しで喋るシーンはあ 85 まり評価されなかった。ドイツ人に憎まれたこのシーンだけはカットされたが、全体的にドイツ盤 DVD は日本版とはほぼ同類である。

3-4 外国における新『ゴジラ』のイメージ

以上のように、1954 年から実際に日本を始め、それ以外の国で上映された『ゴジラ』日本映画シリーズについて、簡単に述べてきた。次に『ゴジラ』を見た外国人が、その後『ゴジラ』に対して抱いた印象等はどのようなものであったか、ということについて検討する。アジア及びヨーロッパ諸国は、原版と異なった新しい『ゴジラ』を上映しようとした際、どのようなストーリーや内容の映画が製作されたのだろうか。インターネットに載ったアンケート結果をまとめながら明らかにしたい。このインターネットアンケートは、1999 年にハリウッドで実写されたゴジラに対する評判が非常に悪かったことを切っ掛けに行われたものであり、代表アンケートとして取り上げたい。

アジア諸国。

韓国。その題名は『ゴジラ×ヨンガリ』とされ、人を食ったり世界遺産を壊したりする悪役の金子ゴジラと正義の味方「ヨンガリ」または「ヤンガリー」との対決のストーリーになる。ところがヨンガリは韓国映画『ヨンガリー』に登場する怪獣の名前であり、この映画は日本の『ゴジラ』と『ガメラ』から大きな影響を受けている。

北朝鮮。核実験と重なりながら、ゴジラとマスゲームでコミュニケーションが図られたうえで、相手怪獣に関係なく毎回テポドンが発射され、毎

回 1 発は無関係な日本へ飛んでいくという内容である。又、プルガサリの登場もある。因みに韓国では「鉄を食い、悪夢と邪気をはらう」「得体の知れない」という想像上の動物の伝説がある。ところが、プルガサリ (Pulgasari)」とは、朝鮮民主主義人民共和国の映画作品の、伝説上の怪物の名前である。

タイ。題名は『ゴジラ×ハヌマーン』。「ハヌマーン」はインド神話におけるヴァナラ (猿族) の一人である。「ハヌマーン」はゴジラが率いる悪の怪獣軍団と戦い、仏像を破壊した罪でゴジラが地獄の帝王に裁かれて晒し首になってしまう結末になる。

台湾。「ゴジラ」相手に「カンフー」で立ち向かう巨人に変身する映画になる。『カンフーハッスル』(Kung Fu Hustle) は、2004 年に香港で公開されたコメディ映画の題名である。

インド。題名は『ゴジラ×戦うマハラジャ』。インドで人気のある観光地タージマハールの前でゴジラ、メカゴジラ、キングギドラ、モスラがダンスするような戦闘シーンに始まり、全国崩壊という破壊シーンに至る流れである。映画に登場する「マハラジャ(MAHARAJA)」とはインド語では偉い王のこと、すなわち、多数の王の中で一番えらい (マハ) 王 (ラジャ) の意味である。

中国。ゴジラとともに旧日本軍の映像を入れている。
ヨーロッパ諸国。

フランス。首都パリのランドマークであるエッフェル塔 (仏: La Tour Eiffel) の破壊があり、モスラと昆虫の蛹が登場する。国内のみならず海や隣国等への限定尽くしの進撃に仕上げたストーリーである。

ドイツ。ヒットラーが率いるナチスドイツと、ゴジラの率いる怪獣軍団との対戦では、捕虜となったユダヤ人を救う正義の味方としてゴジラが登場する。なお、アドルフ・ヒットラー (独: Adolf Hitler) は民族主義と反ユダヤ主義を掲げたドイツ人政治家で、「ナチス」とは彼が指導した国家社会主義ドイツ労働者党のことである。

4. 結論

以上述べてきたように、日本映画『ゴジラ』シリーズは 1954 年以来、様々な外国で上映され、その中から元々の映画題名やオリジナルのストーリー等と異なったものがあった。但し、1954 年から 2024 年にかけては、日

本映画『ゴジラ』全シリーズの殆どは外国で公開される際にほぼ変化が無く、同じタイトルでポスターが作成された。この事実は日本版『ゴジラ』と異なる外国版が少ないことを示すのではないであろうか。とはいえ、日米以外の国で『ゴジラ』が製作された場合、それぞれの独特な歴史背景、政治背景や観光景色にまで触れるものを製作する傾向があったことが事実だということも窺えるのではないか。

従って、結論から言うと、アメリカはもちろん、日本以外の他国で上映された『ゴジラ』を監視するに際し、日本の特殊な文化や伝統のイメージが一部裏に隠れてしまい、それに対し、上映された外国の、それぞれのイメージの方がより表に現れていることに注意して、前もって念頭に置く必要があると述べておきたい。

ところで、去年は、モンスター・ヴァースシリーズ²により、『Godzilla x Kong: The New Empire』というアメリカ合衆国の怪獣映画が上映されたことは、上述のようである。果たして今後は、『ゴジラ』シリーズに新たな映画が増えるのであろうか。また、それが実現されたとすれば、今まで外国で上映された外国シリーズの大半と同じく、日本映画『ゴジラ』全シリーズとほぼ異ならずに上映されるか、意外と新たな変化を中心に上映されるか、もしくは、現代歴史背景や、政治背景、観光背景等を映した版として上映されるか、それに、どのように受容されるか、それらの疑問点に対する回答が得られるには、将来に『ゴジラ』のニュー・コピーが上映し、公開されるかどうかを、楽しみに待つばかりであることにほかならないと思われるので、これで筆を擱くことにする。

5. 結びにかえて

以上、イギリスの他、ヨーロッパ・アジア、それぞれの大陸における日本映画『ゴジラ』の受容の状況について、手に入った資料の限りをうい、簡単に辿り着いてきた。エジプトをはじめ、アフリカ大陸における『ゴジラ』映画撮影・その受容などについては、今ここで述べている暇はない。それについて詳述するとすれば、あらためて別の機会を待つ必要があろう。

² (英: MonsterVerse) は、レジェンダリー エンターテインメントというアメリカ合衆国の映画製作 マスメディア企業が製作し、アメリカの映画製作 配給会社であるワーナー ブラザース ピクチャーズが共同で製作して配給する、ゴジラだけではなくキングコングも主人公とした一連の怪獣映画を中心とした米国のメディア フランチャイズまたはまたはシェアード ワールドである。

ただ、日本映画『ゴジラ』の受容の状況等を、本研究のテーマにした理由は、日本へ留学していたころに興味があったこともある。しかし、当時の元の資料の大半が、現在では手に入れにくくなってしまったため、もっと詳しくしりたいと思う方は、必ず元の資料に直接あたってみてほしい。

6. 注

（注 1）：日本語翻訳「初代ゴジラの）ハリウッド編集版では反核および反米のプロットが削除されていた」

7. 参考文献

（書物）

池田淑子編著『アメリカ人の見たゴジラ、日本人の見たゴジラ』大阪大学出版会、2019 年 4 月 10 日

（電子版の記事）

「映画ファンは、国境を越え、民族を越え、宗教を越えて世界中に・・・・」

「『ゴジラ』、ハリウッド有名スター仲間入り・・・・」

<http://www.astone.co.jp/film-mission/message/message2005.html>

「ゴジラ映画の各国題名表」（東宝特撮映画ポスター館）

<http://www.fjmovie.com/tposter/>

<http://www.ishiikazumasa.com/gwife.b/gwife/gojisama/g-eiga.htm>

「初代ゴジラ（日本語版）が初めて英国で上映される」

<http://slashdot.jp/article.pl?sid=05/08/31/0616224>

http://news.bbc.co.uk/player/nol/newsid_4190000/newsid_4196000/4196094.stm?bw=bb&mp=rm

「もし日米以外の国でゴジラ映画が製作されたら」

<http://wiki.chakuriki.net/index.php/2009>

「ゴジラ映画作品の一覧」

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B4%E3%82%B8%E3%83%A9%E6%98%A0%E7%94%BB%E4%BD%9C%E5%93%81%E3%81%AE%E4%B8%80%E8%A6%A7>

「ゴジラシリーズ全作品リスト」

<https://cinema1987.org/film2/godzilla.html>

<http://emshin-web.hp.infoseek.co.jp/cinema/emshin/d.3.5.1.htm>

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000411.000035599.html>

8. 付録

I ゴジラシリーズ全作品リスト

ゴジラシリーズ日本版・日本国内公開

1. 『ゴジラ』 (1954)
2. 『ゴジラの逆襲』 (1955)
3. 『キングコング対ゴジラ』 (1962)
4. 『モスラ対ゴジラ』 (1964)
5. 『三大怪獣 地球最大の決戦』 (1964)
6. 『怪獣大戦争』 (1965)
7. 『ゴジラ・エビラ・モスラ 南海の大決闘』 (1966)
8. 『怪獣島の決戦 ゴジラの息子』 (1967)
9. 『怪獣総進撃』 (1968)
10. 『ゴジラ・ミニラ・ガバラ オール怪獣大進撃』 (1969)
11. 『ゴジラ対ヘドラ』 (1971)
12. 『地球攻撃命令 ゴジラ対ガイガン』 (1972)
13. 『ゴジラ対メガロ』 (1973)
14. 『ゴジラ対メカゴジラ』 (1974)
15. 『メカゴジラの逆襲』 (1975)
16. 『ゴジラ』 (1984)
17. 『ゴジラ VS ビオランテ』 (1989)
18. 『ゴジラ VS キングギドラ』 (1991)
19. 『ゴジラ VS モスラ』 (1992)
20. 『ゴジラ VS メカゴジラ』 (1993)
21. 『ゴジラ VS スペースゴジラ』 (1994)
22. 『ゴジラ VS デストロイア』 (1995)
23. 『ゴジラ 2000 ミレニアム』 (1999)
24. 『ゴジラ×メガギラス G消滅作戦』 (2000)
25. 『ゴジラ モスラ キングギドラ 大怪獣総攻撃』 (2001)
26. 『ゴジラ×メカゴジラ』 (2002)
27. 『ゴジラ×モスラ×メカゴジラ 東京 SOS』 (2003)
28. 『ゴジラ FINAL WARS』 (2004)
29. 『GODZILLA 怪獣惑星』 (2017)
30. 『GODZILLA 決戦機動増殖都市』 (2018)

-
31. 『GODZILLA 星を喰う者』 (2018)
ゴジラ米国 (ハリウッド) 版
 32. 『怪獣王ゴジラ Godzilla, King of Monsters』 (1956)
 33. 『GODZILLA ゴジラ』 (1998)
 34. 『GODZILLA ゴジラ』 (2014)
モンスター・ヴァースシリーズ
 35. 『シン・ゴジラ』 (2016)
 36. 『ゴジラ キング・オブ・モンスターズ』 (2019)
 37. 『ゴジラ vs コング』 (2021)
 38. 『Godzilla x Kong: The New Empire』 (2024)

II 参考資料

ー「ゴジラ」、英国で初上映へ

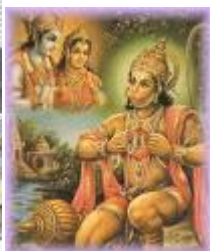


ードイツ盤ゴジラ映画の DVD





ータイの ハヌマーン の画像



ーフランスのエッフェル塔



ー国家社会主義ドイツ労働者党旗



ー2024 年のアメリカ合衆国の怪獣映画『Godzilla x Kong: The New Empire』



1.